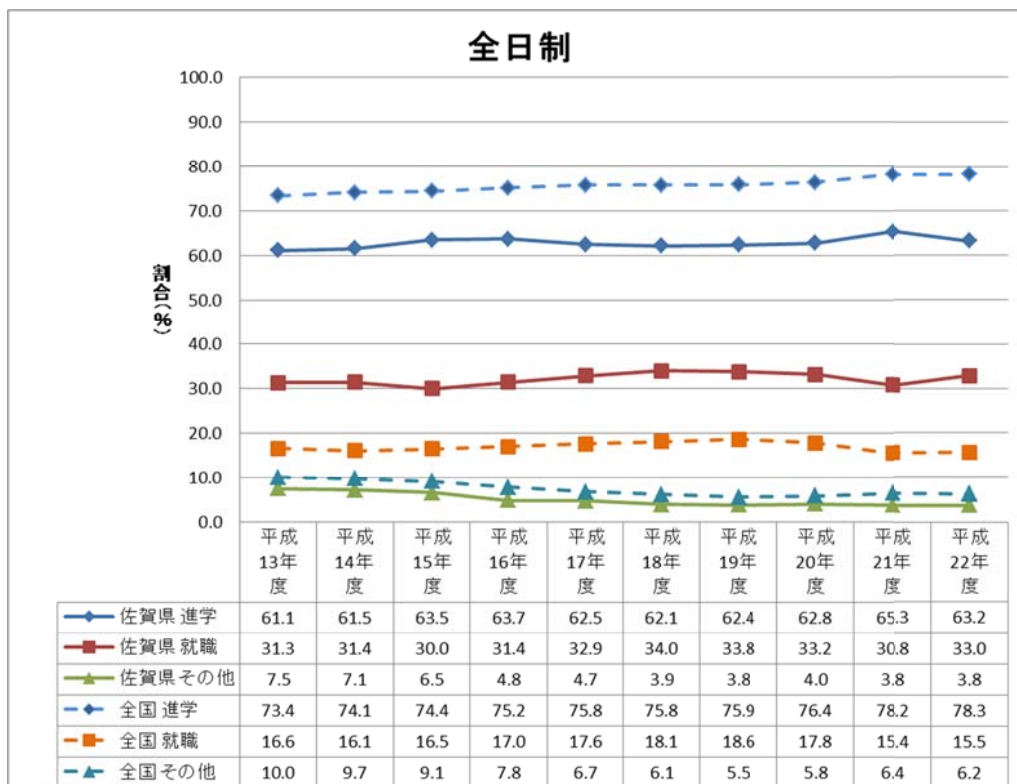


## 資料1 県立高等学校卒業後の進路状況の推移

### 1 佐賀県立高等学校全日制課程卒業後の進路状況の推移（全体）

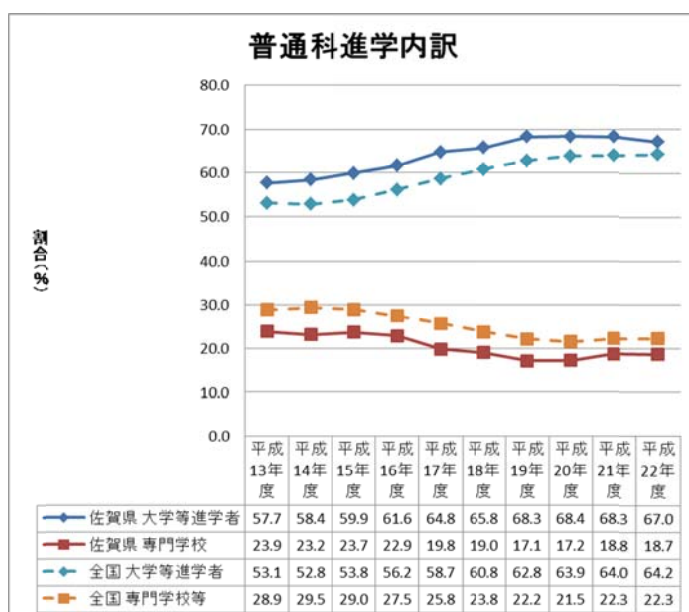
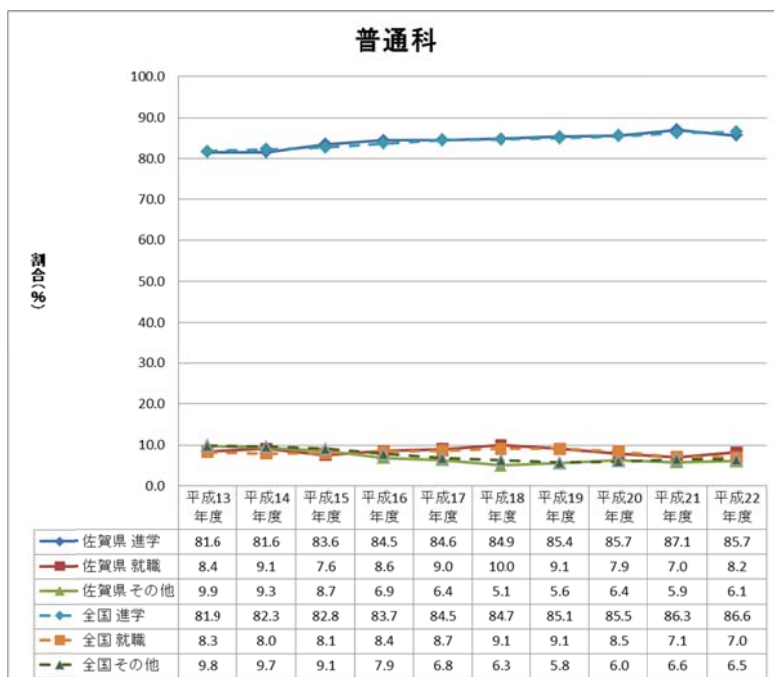
佐賀県立高等学校卒業生のうち、全日制全体の直近10年間平均の進学者の割合は62.1%、就職者の割合は32.3%となっており、この10年間で大きな変化は見られない。また、全国の国公私立高校卒業生の進学者の割合75.2%、就職者の割合17.1%と比べると、進学者の割合が低く、就職者の割合が高い状況である。全国の国公私立高校卒業生のうち進学者の割合は微増傾向、就職者の割合は微減傾向にあることから、さらに差が広がることも考えられる。



(1) 普通科高校卒業後の進路状況の推移

県立普通科高校卒業後の進路状況の推移を見ると、全国の国公立高校の進路状況と比較してほとんど差がない。

進学者の内訳については、本県の場合、大学等進学者(大学や短大、高等学校専攻科へ進学した者)の割合は全国平均より高く、専門学校進学者(専修学校専門課程及び一般課程、公共職業能力開発施設等へ入学した者)の割合が全国平均より低いことがわかる。

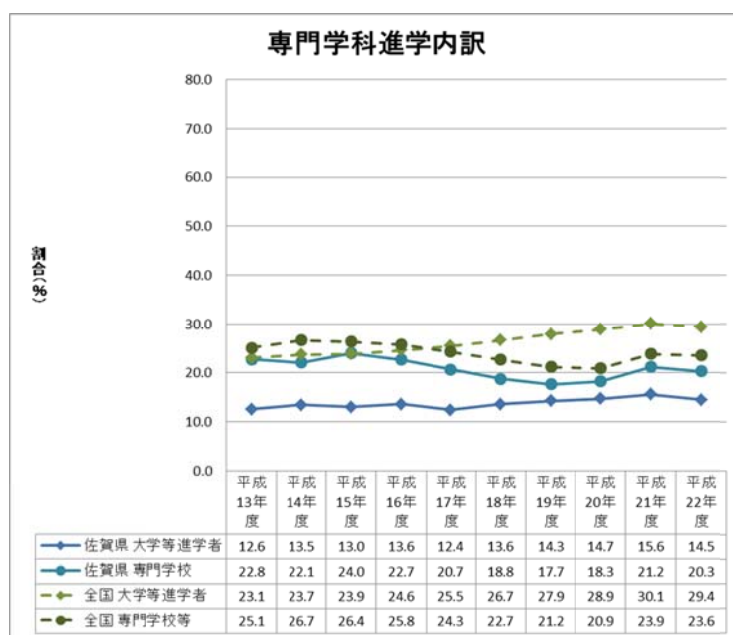
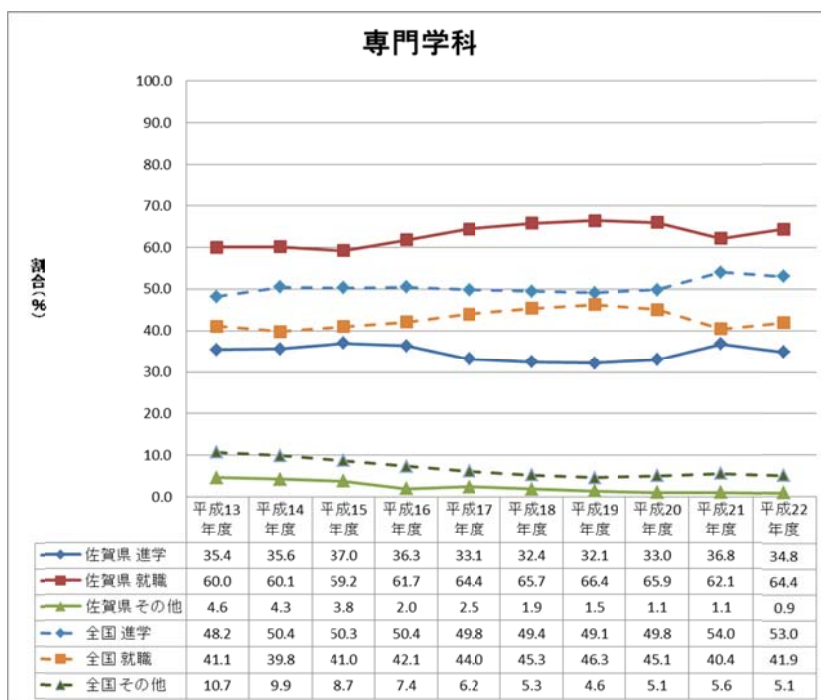


(2) 専門高校卒業後の進路状況の推移

① 専門高校全体の推移

県立専門高校卒業後の進路状況は、就職する割合が6割～7割、進学する割合が3割～4割の間で推移している。これは、全国の公私立高校の状況よりも進学率が15%ほど低く、就職率が20%ほど高い。

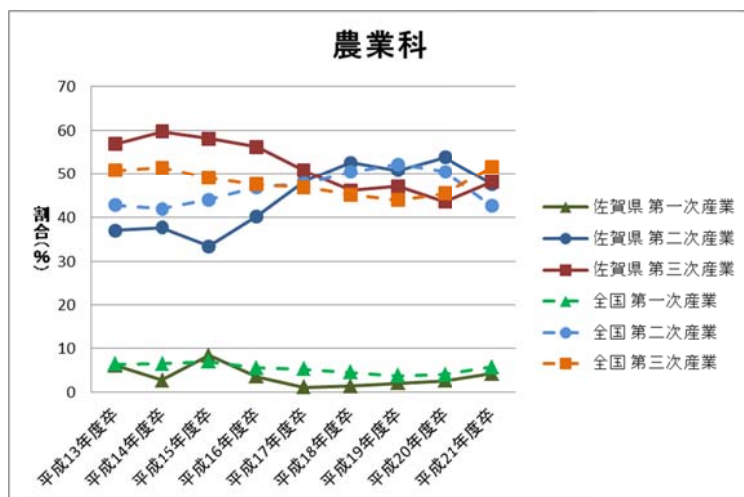
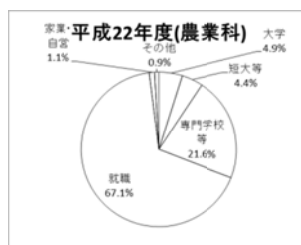
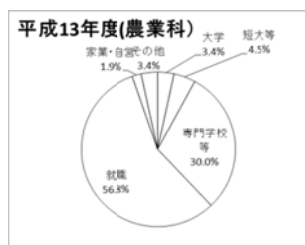
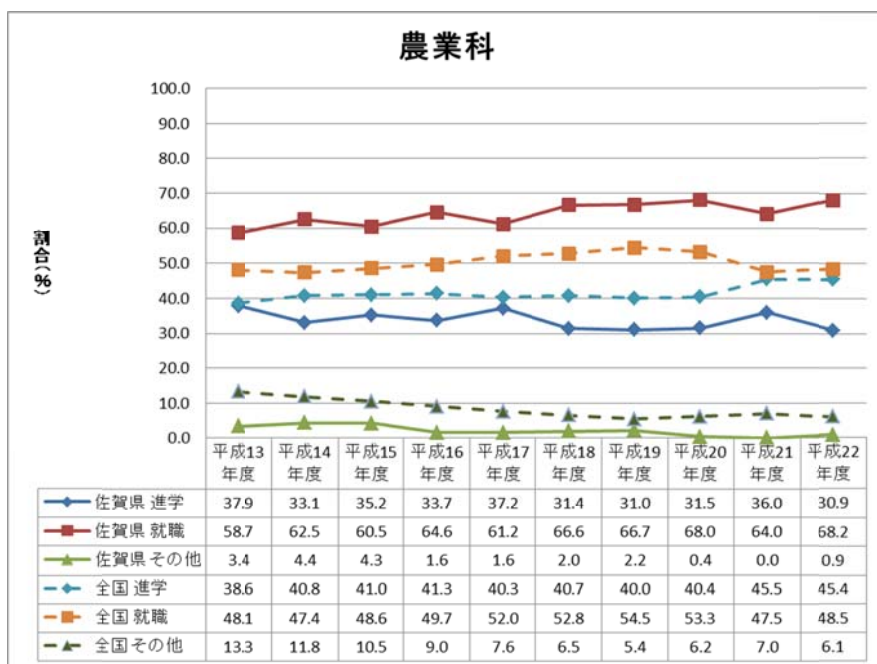
進学する生徒の内訳としては、専門学校等への進学については、全国平均より若干低いが、大学等への進学率は本県でも増加傾向であるものの、全国との状況と比較すると低い状況が続いている。



② 大学科別の推移

ア 農業科

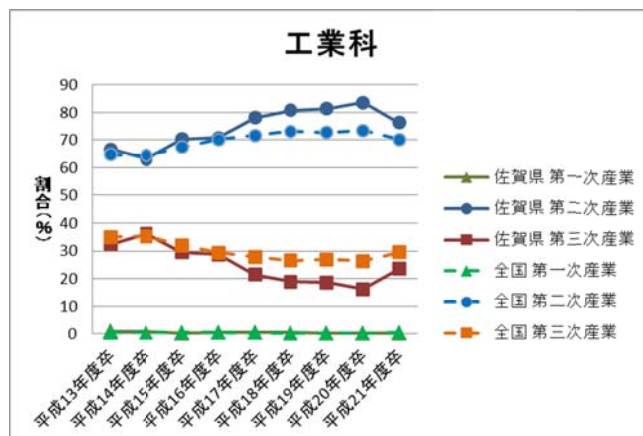
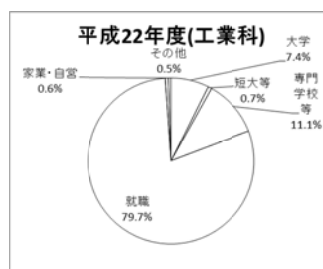
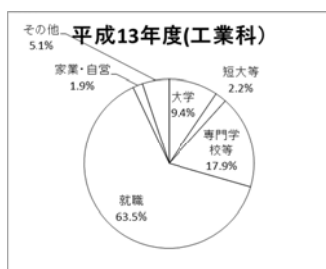
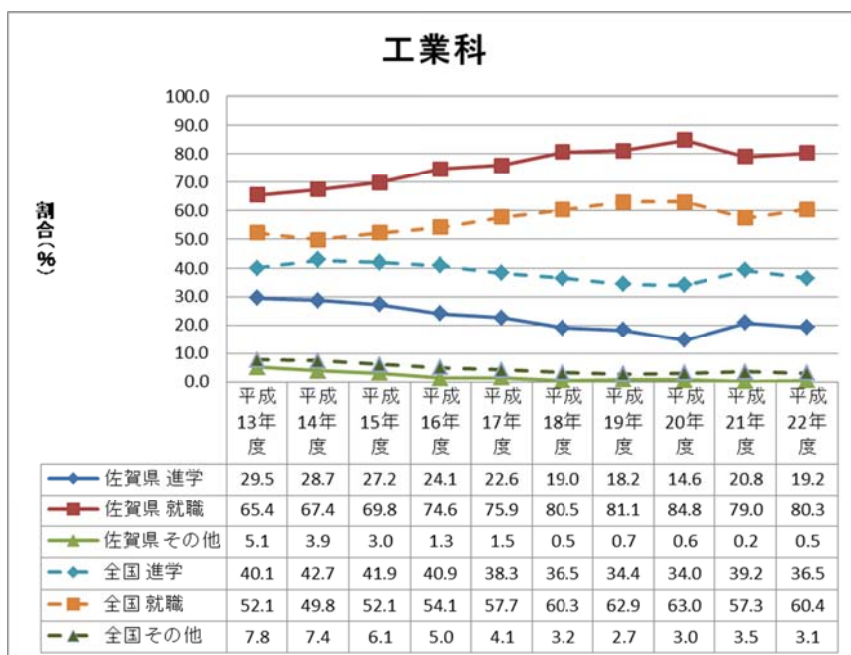
農業科卒業生については、全国平均に比べると、就職者の割合が高く、進学者の割合が低い。全国の傾向と同様、本県においても、農業・林業に就く卒業生の割合は少ないが、ここ近年微増している。



## イ 工業科

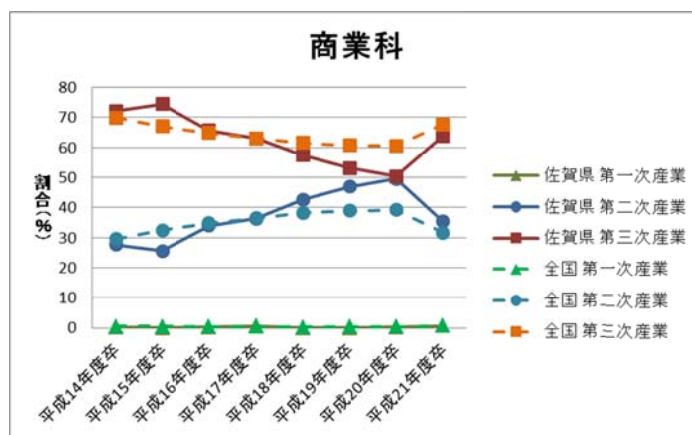
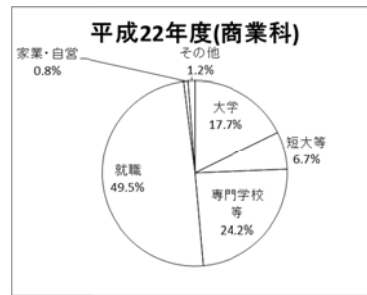
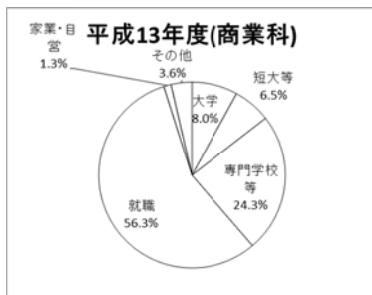
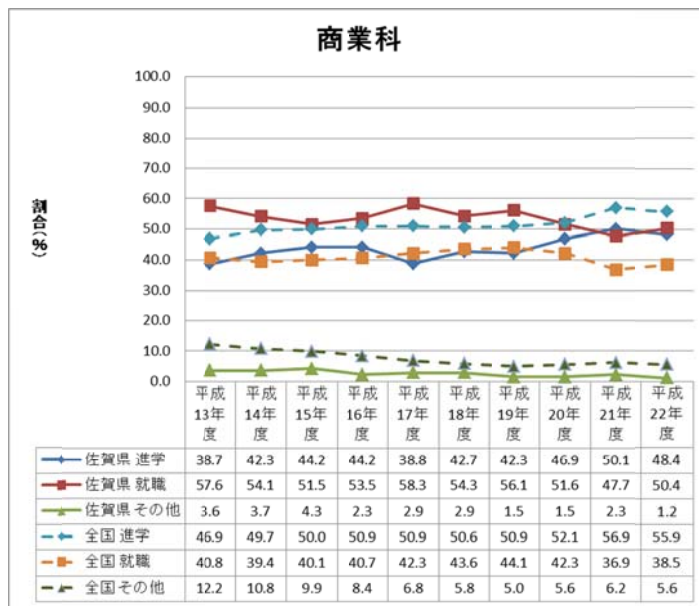
工業科卒業生については、就職者の割合が全国平均より高い状態で推移しており、約8割が就職（自営業を含む。）する状況である。産業別としては、製造業や建設業に就く生徒が多く、高校で学んだことを活かした仕事に就いている実態がうかがえる。

高校卒業後、進学する生徒のうち、大学・短大進学者、専門学校等進学者ともに減少しているが、特に専門学校等への進学者の割合は減少している。



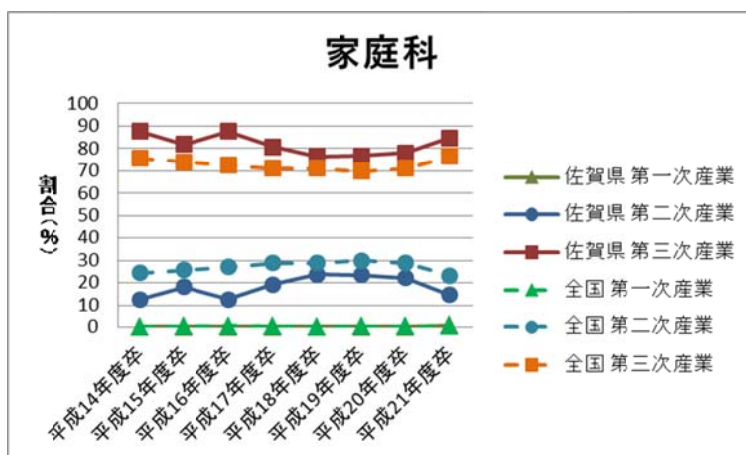
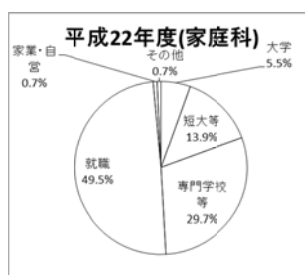
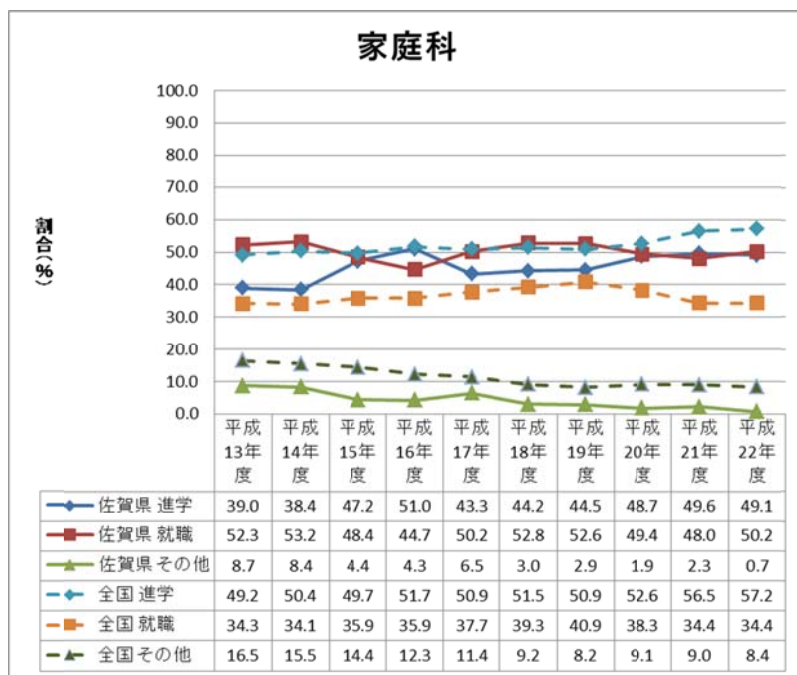
## ウ 商業科

商業科卒業生については、全国的にも進学者の割合が高く、全国平均では進学者の割合が就職者の割合よりも高い状況が続いている。本県の場合は、これまで就職が約6割、進学が約4割という比率だったが、ここ2年ほど就職者と進学者の割合がほぼ等しくなっている。産業別では、製造業に就く割合が3割を超えており、次いで、卸売業・小売業となっている。



## エ 家庭科

家庭科卒業者については、近年進学する生徒が増え、就職する生徒と進学する生徒がほぼ等しくなっている。また、全国的に見ると、家庭科には卒業後、「その他」（一時的な職に就いたり、家事手伝い等の者）が、他学科よりも多い傾向があるが、本県については高校卒業後、資格取得など目標をもって進学したり、就職したりしている。



(3) 総合学科高校卒業後の進路状況の推移

総合学科高校は、それぞれ総合学科に改編前の学校の特徴を生かしながら、総合学科としての特色を出し、生徒の多様なニーズに対応している。

総合学科卒業者については、平成13年度は神埼清明高校（旧：神埼農業高校）のみだが、平成14年度から嬉野高校（旧：嬉野商業高校）の、平成16年度から多久高校（旧：多久工業高校）の卒業生が出たため、県全体の傾向に変化が見られる。現在は、進学者が就職者よりわずかに多い状況で安定している。

平成23年度に唐津青翔高校を普通科から総合学科に改編しており、平成25年度卒業生から総合学科全体の進路状況が変化することも考えられる。

